



私が見た 図書館

短期大学英語科2年次生
小谷 政二

一年次生の時、僕にとっての図書館は、静かな勉強空間だったと思います。しかしその考えは僕の思い込みと利用の少なさからで、実際の図書館は静かなだけでなく、機能性にも優れていました。このことに気づくのに意外にも時間がかかり、在校生のみなさんにもいち早く外大図書館の機能性に気づいて欲しい、僕にあった図書館を見つける切っ掛けになった二つの事について話します。



一つ目は、辞書との出会いです。図書館では、授業の予習、復習、テスト勉強が主でした。図書館で勉強していると解らない事がたくさん出てくるようになり辞書がなくてはならなくなりました。そこで第一閲覧室に置いてあるたくさんの辞書を見つけました。英米関係ではジーニアス、カレッジ、リーダーズを始め多くの専門的な辞書があり、たいへん勉強に役立ちました。その他にも西語関係、ブラジル・ポルトガル語関係、仏語関係、独語関係、日本語関係の辞書もあり、外大全学部に合った辞書が置いてあるのだと思いました。更に書庫にも辞書が多く置いてあることを知り、辞書の品揃えにも驚きました。書庫の辞書に興味があればカウンターに聞いてみて下さい。

二つ目は、図書館に対するイメージの変化です。僕は以前、図書館は静かで、知的なイメージのある所だと思っていました。そしてその知的さが「こんな簡単な事聞いたらだめやろうな」と思う所がありました。しかしそれは僕が勝手に思いこんでいた事と実際に聞かずにあきらめたからです。勇気を出して質問すると、熱心に予想した以上に調べてくれて、探していた本よりも更に良い本を提供してくれました。みなさんもぜひ、小さな事でいいです、質問してみてください。

海外の図書館レポート ⑫

ロイヤルホロウェイロンドン大学

交換留学生 ターナー・L. J.



ロイヤルホロウェイロンドン大学は、1883年にトーマス・ホロウェイによって設立されたイギリス国内では初めての女子大学でした。しかし現在は共学です。トーマス・ホロウェイが彼の妻のために建てた宮殿は今では大学の本館になっています。

ロイヤルホロウェイ大学のキャンパスには図書館が3つあり、その3つの図書館には50万冊の本が置かれています。約3千冊の本は1851年以前に出版されたもので、その中の293冊は16・17世紀以前の本です。

私の大学のほとんどの学生はキャンパス内に住んでいるので、図書館は基本的に午前9時から午後9時まで日曜日も開いています。

図書館の2階には一人一人勉強できる机があるので、学生達はそこで勉強をしています。図書館はとても静かな場所なので、携帯電話の電源は完全に切らなければなりません。もし携帯電話を使っているのが見つければ、その場で図書館のカードは没収されます。

本の貸出期間は大学生は3週間、大学院生は6週間、教員は6ヵ月間です。また音楽のCDやビデオも借りることができます。

一番便利なのは本を継続貸出したいときにパソコンからパスワードを入れ、継続の手続きができることです。家のパソコンから本の予約もできるので、学生にとってはとてもいいことです。